

令和元年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、課題発見解決力の育成を目指した教育課程編成及び授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な取組みを推進する。</p>	<p>①様々な学習の機会を提供し、学習習慣の定着を図る。生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>②体育祭・文化祭・合唱祭及び生徒会活動のさらなる活性化をとおして主体性や社会性、豊かな人間性の涵養を図る。</p>	<p>①土曜日や長期休業中の講習、キャリアアップ講座等の内容をさらに充実させ、学習意欲を向上させる。授業改善に向けた各教科の具体的な目標・手立てを再構築し、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が実行委員会等組織における役割を意識して取り組むよう指導し、主体的な取組みを通してリーダーシップを育むなど人材育成を図る。</p>	<p>①実力アップ講習やキャリアアップ講座の開講講座数や受講生徒数が前年度を上回ることができたか。</p> <p>②学校評価アンケートの学校行事・部活動等において、「主体的に取り組むことができたか」等の項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。</p>	<p>①土曜日の講習は前後期合わせて、昨年度49講座、704人から51講座981人に増加した。キャリアアップ講座の開講数も30講座から43講座に増加した。</p> <p>②学校行事等を通じて、生徒の主体的な取組を支援し、リーダーシップを育んだ。学校評価アンケートの該当項目について、肯定評価86%を達成した。</p>	<p>①3年生を中心に実力アップ講習の受講者は増加しているが2年生の受講者が少ない。学校全体として、生徒が積極的に受講する環境づくりが必要。</p> <p>②行事のさらなる活性化を図り、生徒主体の運営をこれまで以上に強化し、リーダーシップが豊かな人間性、社会性の向上、グローバル社会における真のリーダーの育成を図る。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善が、組織的・多面的に行われている。しかし、指導法の工夫など授業の取り組み状況についての情報があるとよい。</p> <p>②リーダーシップの育成は大切であるが、教員が教えるというより、様々な体験や経験から育まれるものであるから、そのような場を多く作ることを期待する。</p>	<p>①様々な学習の機会を提供し、学習意欲の向上を図ることができた。教科会を主体とした授業改善の取組みは着実に進んでいるが、各教科の取り組み状況を学校全体で共有するまでには至っていない。</p> <p>②三大行事(文化祭、体育祭、合唱祭)はすべて生徒主体で立案・計画・運営ができ、委員長等主たる生徒のリーダーシップを育てるとともに、全生徒の協調性も育むことができた。</p>	<p>①引き続き、様々な学習の機会を提供し、学習意欲の向上を図ると共に、授業改善に向けた各教科の取組みを共有し、更なる授業改善に生かす。</p> <p>②学校行事と部活動について、学業と並行させながら、何事にも全力で、かつ、高いレベルを維持した活動となるよう、意識付けを行いながら、引き続きリーダーシップと協調性の育成を図る。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を通し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、心身の成長を支援する。</p>	<p>①部活動のさらなる活性化をとおして主体性や社会性、豊かな人間性の涵養を図る。</p> <p>②生徒への支援体制について情報共有を密にし、様々な機関との連携や活用を図るなど、さらに組織的な対応を図る。</p>	<p>①部活動指導において、活動目標を明確化し、部員一人ひとりが組織の一員として責任ある行動を取り活動の目標達成できるよう支援する。</p> <p>②教育相談に関する校内ガイドラインなどを策定し、組織的に対応できるようにする。また、スクールカウンセラー及び外部の相談機関、専門医療機関、支援教育地域連絡協議会等との積極的な連携や活用を図る。</p>	<p>①学校評価アンケートの部活動取組状況や満足度等について肯定評価80%を達成できたか。</p> <p>②学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。ケース会議等の実施状況の充実度はどうか。</p>	<p>①学校評価アンケートの部活動の充実について、1年79%、2年70%であった。</p> <p>②3年生は81%以上の肯定評価を達成し、1、2年生は67%であった。ケース会議については必要に応じて実施した。</p>	<p>①部活動の活性化に努めるとともに、生徒の健康や生活に対する配慮を行い、バランスのとれた生活を送らせる。</p> <p>②「心の悩み」を抱える生徒の相談に関し、丁寧な個別対応をし、一定の成果をあげている。相談に対しては対応し、医療関係や教育相談センター等の外部機関との連携を密に行い、さまざまな生徒の相談に応えられるようにする。</p>	<p>①部活動、講習、行事などの各活動が、生徒にとってバランスの取れた健康的な生活が保証されるようより計画的な企画実施を望む。</p> <p>②「心の悩み」を抱える生徒に、早期に対応するには、個別の働きかけと校内の情報共有が必要である。SCなど外部専門機関との更なる連携強化を期待する。</p>	<p>①部活動の90%以上の参加率を得て、活発に活動した。</p> <p>②生徒一人ひとりの子に応じた支援体制の充実を図るという目標に対して一定程度の成果をおさめている。</p>	<p>①部活動については、学業との両立はもとより、特に運動部において安全を意識した活動を行わせ、一人ひとりの生徒により丁寧に対応した指導を期す。</p> <p>②「心の悩み」を抱える生徒に、早期に対応するため、個別の働きかけと校内の情報共有に努めるとともに外部専門機関との更なる連携強化を図っていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計出来るよう、自らのキャリア発達を意</p>	<p>①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。</p>	<p>①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組むとともに、本校の教育改革に対応した新たな教育活動全般を</p>	<p>①面談(三者、二者)や進路説明会等が有効であったか。センター試験結果、難関大合格状況、現役進学率</p>	<p>①進路決定のガイダンスなどの満足度1年62%、2年83%と差があった。国公立大学の現役合格者は102名、難関大は16名</p>	<p>①新大学入試の変更点を踏まえ、国公立大の推薦入試枠の増加に向けた対策、進路説明会の実施及び内容について一層研究を</p>	<p>①進路指導プログラムの周知を徹底し、各ガイダンスの目的を明確にしながら引き続き充実したガイダンスを期待する。</p>	<p>①学力向上進学重点校指標5にある難関国公立大学等現役合格者は16名、スーパーグローバル大学現役進学率は20.6%であった。また、現役進学率は23.4%、早慶上理を含むと48.7%であった。来年度から新入試に</p>	<p>①生徒が持っている資質より、進路希望が低い目標設定となっているため、教科と連携のほか、入学時や学校説明会にて国公立大学への意識付けをより強くし、学校全体での意識改革を進めていく。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月20日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	②グローバル教育の充実及び拡充、知的好奇心(興味関心)に対応できる教育活動の展開を図る。	見通した「新・進路指導プログラム」を策定する ②外部教育機関等を活用したキャリアアップ講座、国際理解教育、科学と文化(総合的な学習の時間)、インターンシップ等をとおして、グローバルな視点を持ち、社会貢献への意欲を高め、具体的な将来像を描けるよう支援する。	(国公立30%、早慶上理も含み50%)の達成状況はどうか。 「新・進路指導プログラム」は策定できたか。 ②各教育活動の実施回数と満足度はどうか。	である。 ②キャリアアップ講座は昨年度より2講座増	深め、進路プログラムの策定を目指す。51期生の進路状況は結果を待つところであるが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出す指導を進める。 ②ひとつの講座の目的をより明確にするなど、引き続き講座の充実を図る。	②キャリア教育のより一層の質の向上を図ってほしい。グローバル教育の多彩な取組は秀逸である。それぞれの生徒の体験を情報発信し生徒同士の啓発に繋げてほしい。	変わるため、もう1年受験する生徒は減少した。 ②キャリアアップ講座は講座数も増え、これまで以上に、生徒に多様な分野の学習機会を与えることができた。グローバル教育については、その定義や考え方が教員間で統一されていないため、学校内での位置付けが定まらなかった。	②キャリアアップ講座は外部教育機関との連携を強化し、通常の授業ではできない学習や活動の体験をさせることで、生徒の視野を広くする。グローバル教育については、研修会を開いて、教員間で考え方を共有するとともに、特色ある教育として学校づくりの柱となるよう、進める。
4	地域等との協働	保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動について、保護者、地域など、より広く情報発信に努める。 ②行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①本校の情報発信に対するアンケート結果はどうか。 ②外部機関や講師の活用状況、保護者・生徒の満足度等の結果はどうか。	①CMSによるホームページで、情報発信に努めた。 ②保護者の満足度は70%を超え、1年生でも70%を超えていた。また栄区、消防署、小中学校など地域と連携し様々な学習活動ができた。	①保護者の50%が学校の情報をよく伝えていたと回答した。さらに保護者の満足度を高めるため、情報発信を強化していく。 ②地域等の連携を密にし、生徒・保護者が満足する教育活動を引き続き展開できるようにする。	①50%の保護者が学校の情報提供にご満足頂けていることはとても良い。 ②高校では地域との連携が課題になりがちだが、栄区との連携が密に行われ、地域と共に育つ学校像が見える。	①ホームページの作成と更新ができる人員が限られていたために、保護者や地域より求められる情報提供が十分にできないことがあった。 ②栄区、消防署、小中学校など地域と連携した様々な学習活動ができた。	①ホームページの担当者を増やし、正確かつ迅速な情報提供を実現させる。「授業の柏陽」や部活動などのコンテンツを充実させる。 ②地域の各機関との連携を強化し、特に、生徒の防災意識を高める取組を強化する。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化づくりをとおし、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備を推進する ③教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化の定着を図り、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備をさらに推進する。 ③長時間勤務を是正する。	①教育環境の変化や新たな課題等を共有するための会議等の活用や校内研修等を開催し、職員の組織的な教育活動の推進に資する。 ②ICTの効果的な活用などにより、より一層の情報の共有化や校務の効率化を図る。事故防止会議の計画的な実施、施設・設備の安全確認、防災マニュアルの見直し、防災用品の補充・整備等を継続的に行う。 ③勤務時間内の会議を徹底する。	①会議等の活用状況や校内研修会等の実施回数と充実度はどうか。 ②円滑な改善の視点を持って校務の効率化を図れたか。事故防止会議の実施回数等はどうか。防災対策やマニュアルのさらなる見直し、防災用品の補充・整備等の状況はどうか。 ③勤務時間内の会議設定の割合はどうか。	①職員会議・企画会議・グループ会議・教科会議・学年会議・事故防止会議を年間行事予定に設定し、計画的に開催した。 ②打合せは電子掲示板を活用し、時間短縮を図った。事故防止会議は年間13回開催した。災害対策は避難訓練を3回計画し、2回を実施した。災害発生時の対応を生徒自身が考えられるよう工夫した。防災マニュアルの改訂を行って、全職員に3冊すべてを配付した。防災関係の保管物品・保管場所の整備等を行った。	①会議設定の基本方針を策定し、効率よく、計画的に開催できるように計画する。 ②電子掲示板をはじめとして電子機器における使用上の不具合が発生したので、その対策を策定しておく。校内施設安全点検を実施し、予算の計画的な執行について、事務と連携し実施した。防災関係について様々な視点を持って、改訂を行った。 ③職員会議の勤務時間内終了割合は90%を達成した。	①各種会議等が効率よく実施され、校長先生のリーダーシップのもと、緊張感とスピード感のある学校運営が図られている。 ②防災訓練では、リアリティを追求し、生徒自主避難訓練を実施するなど工夫がなされ、効果的に防災意識が醸成されている。新年度からのグランド改修工事や校外での部活動等においては事故防止に向けた適切な対応をお願いしたい。校舎が古く、早い時期に内装だけでもリニューアルされることを望む。良い環境で生徒に学業に励んでもらいたいと思う。 ③教員は働き方改革についての共通認識を持っていた。	①校長のリーダーシップのもと、各種会議が効率よく実施され、学校運営が円滑に行われている。 ②職員及び生徒の防災意識もリアリティを追求した防災訓練により高まっている。生徒の学習環境、生活環境の整備に努めた。 ③教員の働き方改革に関する意識も向上したが、学年会やグループ会議など一部の会議では勤務時間外にずれ込むことが常態化していた。	①引き続き、各種会議が計画的かつ効率的に運営されるよう努める。 ②新型コロナウイルスによる臨時休業のためにより現実に即した防災訓練を実施することができなかった。引き続き緊張感のある防災訓練を実施するとともに、安全な教育環境の整備を目指す。 ③教員が生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。